

青壮年部紹介 <菊池>



YouTube

チャンネル登録してね♪



おくだ すすむ
奥田 奨(43)

就農年数 11年

生産品目 菊池水田ごぼう、里芋、水稻
450 a

家族経営で、令和2年に法人を設立。(株)オクダファームの代表取締役として頑張っています。ドローン等のスマート農業を取り入れながら、自分の経営だけでなく、地域法人の経営も大きくしていきたいです。



香りがよく、
やわらかくて肌が白いのが
「菊池水田ごぼう」
の特徴です♪

収穫したゴボウを
洗って水に浸け
選別・袋詰めします

農業を始めたきっかけ

福岡での仕事を辞めて菊池に帰り、農業で家族を支えたいと思ったのがきっかけです。福岡では、劇団に所属していました。

農業の楽しいところ

作った野菜を“美味しい”と言ってもらえた時に楽しさ、やりがいを感じます。

栽培で気をつけていること

近年は天候に大きく左右されるので、9月の冬ゴボウの播種時は、特に気温や水管理に気をつけています。

青壮年部に入ってよかったこと

同年代の仲間ができたこと。楽しく活動しています。



事務局
さかもとひとし
坂本 仁職員



奥田家のみなさん

妹
あゆみ
文香さん

父
ともひろ
智博さん

母
えりこ
悦子さん

令和6年度 JA熊本県青壮年部大会 優秀賞受賞！

盟友の主張発表大会

昨年10月に開かれた県大会でJA菊池代表として出場させていただきました。サポートしていただいた方々に感謝の気持ちでいっぱいです！

盟友の主張 「30年後、私たちはどう生きるのか」 奥田 奨 ※一部抜粋

農業経営で苦勞する事がたくさんあり、ひとつは人材確保です。求人を出しても応募すら無い事はよくあり、入ってきても一年と経たずに辞められる事もありました。

そして特に苦勞しているのが農地です。規模拡大をしようと思ひ、知り合いや農地バンク制度を通じて農地を探しましたが、まだ見つかりません。

現在、菊池地域では164ha以上の農地が工業用地や宅地などに転用され、このまま進めば、近い将来菊池地域は都市化していくでしょう。

私たちが農地転用問題に立ち向かうために、一人ひとりにできることはなんでしょうか。ひとつは、地域との連携強化です。

農地を守るために地域社会との連携を強化することが重要で、そのために同じ地域の農家同士、そして私たち盟友同士、協力することが必要です。次に、国や自治体が提供する、政策や補助金を最大限に活用することが考えられます。

また多くの農家が抱える課題は、農地の分散化や高齢化による生産効率の低下です。これらの課題を解決するためには、農地の集約化を図り、機械を導入し作業の効率化を進め、労働力やコスト削減を行う必要があります。

私は地元の農事組合法人袈裟尾の一員として農地の集約化、田植えや稲刈り作業の共同化に取り組んでいます。共同化することで、作業を効率化できています。

そして農地の集約化です。何年前前から、先輩農家たちが地域のために農地の集積・集約化に取り組んでくれたおかげで、農地集約には複雑な手続があります。行政との調整、申請手続き等、私たちが苦手な部分をJA職員が丁寧にサポートしてくれたおかげで、ずいぶんスムーズに進んだと思います。狭くて使いにくかった圃場が、基盤整備された使いやすい圃場へとなっています。

地域における農地転用が進む中で、私たちは農業の未来を見据え、単なる規模拡大ではなく、地域との連携強化、農地の集約化や生産性向上に向けた取り組みを強化すべきだと考えます。

私たちの農業を次世代に引き継ぐためにも、地域全体で協力することが大切であり、私たち一人ひとりの行動がこれからの農地を守り、持続可能な農業の未来を築いていくと信じています。30年後、私たちはどう生きるのか。



令和6年度JA菊池青壮年部発表大会

JA菊池青壮年部大会で
最優秀賞を受賞

一緒に活動しませんか？お近くの中央支所青壮年部事務局へお声かけください♪